



精神保健福祉ぬくもりの会

「安心して本音で話せる大事な場所」

議会だより編集委員会が直接話を聴いて市民の本音に迫る「あなたにスポットライト」。今回号より新特集をスタートします。

第一回は精神保健福祉ぬくもりの会の皆さんにスポットライト!! 会員の皆さんはこの会場を「安心して本音で話せる。私たちにとって大事な場所」と口をそろえます。精神障がいのある当事者を支える家族にお話を伺いました。

統合失調症の患者100人に1人

統合失調症は約100人に1人が発症する身近な精神疾患。発症をオープンにする人は稀で、罹患率の割に身近に感じられない理由の一つです。

ぬくもりの会は統合失調症をはじめとする精神障がい者の家族やボランティアでつくる団体。現在、50人の会員が参加し、日頃の悩みや戸惑いを安心して語り合う月に一度の交流会、学習会、レクリエーションなどを行っています。



▲ぬくもりの会の皆さん

「富士宮市の人口を考えたらず市内に1300人くらいはいるはず。現実には多いけど表に出られず、治療していない人もたくさんいる」と遠藤隆子会長は話します。

当事者の苦しみ、家族の心労と混乱もあまり知られていません。

症状が進み、幻聴や幻覚から物を壊したり大声を出したりするケースも少なくありません。また、社会との関係を断ち、長年引きこもり状態となるケースもあります。そして追い詰められ、社会に絶望して、助けを求めざるを得ないケースも出ていく。

「親も『育て方が悪かっただけで、暫くすれば良くなる』と医師にも相談せず症状が悪化する、家族、本人だけで悩んでいるケースも多いのです」。

こころの病気と向き合う 交流会では体験談の発表

一方で、統合失調症は早く治療を始めるほど、回復も早いと言われています。適切な治療で安定した生活に戻すことも可能です。

取材のために参加した2月の交流会。社会人生活を送る中で突如発症し、現在は自動車運転して家族と外出するまで回復した女性が体験談を発表していました。また、軽作業から得意なパソコンを使った仕事への転職を求める前向きな現況報告をする会員さんもありました。

元々は平成12年に始まった保健所主催の「こころの健康講座」の参加者から始まったぬくもりの会。こころの病気と向き合うためのかけがえのない時間を創り続けています。

「友だちもできた。ぬくもりの会に参加していなければウチも孤立していたと思う。本音で話せて、勉強



▲2月の交流会



▲バーベキュー交流会 (提供写真)



▲当事者芸能人を招いた公演会 (提供写真)

もできる」。

そして設立から20年以上が経過した今、ボランティアの会員まで門戸を広げています。「お互いに傷をなめ合っているだけではないんですよ。健常者の方にも入会してもらって本当によかった」と当事者家族ならではの表現を笑顔でできるのも会の特徴です。

病気への理解を広めるために 支援情報にたどり着く工夫を

医療につながるための支援が充実するために、もっと病気への理解を広めていくことが求められています。

会員の皆さんからは「偏見と差別は今も変わらずにある。家族も『隠したい』という思いが働いている」と声が上がります。

「必要な医療、福祉、支援の情報がたどり着くのは本当に大変。富士宮市に暮らし、本当は助けを求めている人のために市のホームページのトップページに『心の健康』のバナーを設けるような取組を期待しています」。(文責・中野健太郎)